

酪農試験場セミナー特集

2月25日、当場にて酪農試験場セミナーが開催されました。当日は、酪農協や農業振興事務所職員の方々に御参加いただき、当場での試験研究成果を紹介しました。今回は、その内容について、畜産農家の方々に広く紹介できるようにと内容の要約を特集として載せましたのでご覧ください。

トウモロコシサイレージ並びに食品副産物を主な原料とするTMR活用法

配合飼料価格の高騰対策として、トウモロコシサイレージととうふ粕等を主な原料とするTMR飼料給与試験を実施しました(表1)。

その結果、泌乳中期では、乾草や圧ペントウモロコシを給与せず、トウモロコシサイレージやとうふ粕を主としたTMR給与でも、乳量、乳成分に影響なく飼養でき、かつ飼料費が節減(約600円/頭/日)できることがわかりました。

	現物: kg	
	対照区	試験区
チモシー乾草	5.0	-
圧ペントウモロコシ	4.3	-
トウモロコシサイレージ	13.7	26.0
とうふ粕(乾燥)	1.9	3.7
その他(ビート・フスマ等)	8.1	10.6
乳量	32.5 kg/日	36.8 kg/日
乳脂率	4.17 %	4.17 %
無脂固形分率	8.74 %	8.79 %
乳飼比	47.5 %	33.6 %

(飼養技術研究室 室井 章一)

牛群検定成績の活用事例(MUNと乳蛋白率について)

牛群検定成績表にMUN(乳中尿素窒素)と乳蛋白率というデータがありますが、この値から各乳牛の栄養状態を知ることができます(表2)。

各牛、各牛群への過不足のない飼料給与により、低コスト生産を心がけましょう。

表2 MUN(乳中尿素窒素)と乳蛋白率の関係

		乳蛋白率		
		3.0未満	3.0~3.4	3.4以上
MUN	15以上	蛋白多 エネルギー少	蛋白多	蛋白多 エネルギー多
	8~15	エネルギー少	適正	エネルギー多
	8未満	蛋白少 エネルギー少	蛋白少	蛋白少 エネルギー多

(飼養技術研究室 藤田 大輔)

総合討論での主な検討内容

質問: 飼料価格高騰を受けてトウモロコシを多く作付けした農家があり、最大限 kg 給与してよいのかという疑問があるが検討願いたい。

回答: 今後十数年間、飼料穀物の逼迫状況は変わらないと言われています。このことから、自給飼料の増産と最大限の給与については、研究の主テーマと考えており、自給飼料の主力であるトウモロコシサイレージの多給も含めた「国産飼料100%生乳生産技術の開発試験」を実施予定です。

質問: 今後、年々増産が予想される飼料イネの栽培・給与試験をお願いしたい。

回答: 現在、農業試験場と共同で栽培試験を実施しています。また、給与については、すでに多くの知見があることから、酪試日より等よりわかりやすい資料を作成・配布します。